

令和7年度

新潟県議会オランダ訪問団報告書
(概要版)

自 令和7年9月1日(月)
至 令和7年9月6日(土)

新潟県議会オランダ訪問団

は じ め に

新潟県議会オランダ訪問団 団長

新潟県議会副議長 笠原義宗

このたび、議員 10 名からなる「新潟県議会オランダ訪問団」の団長として、令和 7 年 9 月 1 日から 9 月 6 日までの日程で、オランダを視察してまいりました。

本県は、若者の県外流出や少子高齢化による人口減少に歯止めがかからない状況です。そして、本県における重要な基幹産業である農業においても、農業従事者の減少や高齢化が進行しています。

県議会といたしましては、持続可能な農業の確立に向け、経営や生産技術の最適化によって生産性、収益性を高める取組について調査することが重要であるとの判断から、オランダへの視察を実施したところです。

オランダは世界有数の農業輸出国であり、スマート農業をはじめ先進的な農業に取り組んでいる国でもあります。

調査の概要は後述のとおりですが、今回の視察を通じ、現地での取組や課題について関係者の方々と忌憚なく意見交換できたことは、大変有意義でありました。

今回の視察で得た成果を、今後の県政の発展に十分に活かしてまいりたいと考えております。

最後に、この視察が所期の目的を達し、無事に旅程を終えることができましたことは、関係各位のご協力の賜と厚くお礼を申し上げますとともに、本書をもってご報告といたします。

新潟県議会オランダ訪問団 名簿



顧問 Advisor

皆川 雄二

Yuji/MINAGAWA

自由民主党

厚生環境委員会委員



団員 Member

飯野 晋

Susumu/IINO

自由民主党

産業経済委員会委員長



団長 Delegation Leader

笠原 義宗

Yoshimune/KASAHARA

自由民主党

新潟県議会副議長



団員 Member

森田 幸衛

Koei/MORITA

自由民主党

産業経済委員会副委員長



副団長 Deputy Leader

安沢 峰子

Mineko/ANZAWA

公明党

産業経済委員会委員



団員 Member

土田 竜吾

Ryugo/TSUCHIDA

未来にいがた

厚生環境委員会委員



秘書長 Secretary

高橋 直揮

Naoki/TAKAHASHI

自民党

総務文教委員会委員



団員 Member

諏佐 武史

Takefumi/SUSA

未来にいがた

建設公安委員会委員



団員 Member

小山大志

Taishi/KOYAMA

自民党

厚生環境委員会委員長



団員 Member

大平 一貴

Kazutaka/ODAIRA

リベラル新潟

産業経済委員会委員

随員 Attendant

星野 人司

Hitoshi/HOSHINO

新潟県議会事務局

総務課 参事

随員 Attendant

橋本 瑛

Akira/HASHIMOTO

新潟県議会事務局

総務課 主任

添乗員 Tour Attendant

梶田 浩美

Hiromi/KAJITA

株式会社日本旅行

新潟県議会オランダ訪問団 日程

月 日	行 程	宿泊地
9/1 (月)	16:20 羽田空港発 (CX549) 20:00 香港着 乗換 23:15 香港発 (CX271)	機中泊
9/2 (火)	6:55 アムステルダム着 13:30 JETRO アムステルダム事務所 15:30 Hokkai Suisan (北海水産) 社	アムステルダム
9/3 (水)	10:00 Haakman Flowerbulbs 社 15:00 Shilla、Albert Heijn	
9/4 (木)	8:30 P.F. Onings 社 11:00 Moerman Liliun 社 13:00 Tomatoworld 14:30 World Horti Center	
9/5 (金)	12:15 アムステルダム発 (CX270)	機中泊
9/6 (土)	6:10 香港着 乗換 9:05 香港発 (CX504) 14:30 成田空港着	

注：時間は現地時間

視 察 の 概 要

JETRO アムステルダム事務所訪問概要

1 日 時

令和7年9月2日（火） 13時30分

2 場 所

JETRO アムステルダム事務所
(北ホラント州 アムステルダム)

3 説明者

JETRO アムステルダム事務所
奥井 所長
宮崎 実習生



調査事項：オランダの経済概況や農業に関する動向について

- ・ オランダの経済規模は世界第18位で、東京都と同程度である。周辺国、特にドイツに影響を受けやすい経済構造となっている。
- ・ 2024年には貿易黒字が過去最高となり、特にEU向けの輸出が増加している。
- ・ ヨーロッパ各地へのアクセスの良さからなる物流のハブ機能や、英語力の高さがオランダの競争力の高さを支えている。
- ・ 物価の上昇が大きな問題となっている。中でも住宅購入価格の上昇が深刻であり、新築物件の購入価格は、平均で8,000万円程度となっている。
- ・ 日本からオランダへの海外直接投資額は、アメリカに次ぐ第2位である。オランダから日本への投資額も上位となっており、両国間の結びつきは強い。
- ・ 約700の日系企業が進出している。ブレグジット（イギリスのEU離脱）以降、イギリスから拠点を移した企業も多い。
- ・ 農業分野では、生産する作物の選択と集中を行い、病気等に強く収穫量の多い品種の研究開発等を行うことで、大きな収益を上げている。例えば、なすの面積当たりの収穫量は、日本と比べて非常に多い。
- ・ 農業の大規模化、専門化も進んでおり、農業法人数は減少しているものの、法人あたりの平均耕作面積は増加している。

Hokkai Suisan（北海水産）社訪問概要

1 日 時

令和7年9月2日（火） 15時30分

2 場 所

Hokkai Suisan（北海水産）社
（北ホラント州 エイマイデン）

3 説明者

Hokkai Suisan 社
CEO マリナス・ノーデンボス 氏
料理長 大田原 氏



※引き続き、JETRO アムステルダム事務所の奥井所長、宮崎実習生が同行した。

調査事項：欧州における日本食の普及状況等の把握、県産品の海外展開の可能性について

- ・ 北海水産社は魚介類を中心に日本食を取り扱っており、ヨーロッパ内 15 カ国の 8,000～1 万世帯に食材を届けている。
- ・ CEO のマリナス氏は日本食文化の展開に熱心で、農林水産省から日本食の親善大使に選ばれている。
- ・ 工場内で定期的に日本食祭り・オープンデーを開催し、日本食の紹介や提供が行われる。メーカーにとっては一人一人の意見を聞くことができる貴重な場となっている。
- ・ 日本からヨーロッパへの輸出については、EU HACCPの取得がハードルとなっている。また、輸出にかかる許認可等手続きに時間がかかるのが課題である。
- ・ 日本や日本食に対する認知度は高まってきているものの、新潟の認知度は低い。オープンデーや動画等で新潟の魅力ある商品を宣伝していくことが必要である。
- ・ マリナス氏の案内により、工場内の見学及び意見交換を行った。

Haakman Flowerbulbs 社訪問概要

1 日 時

令和7年9月3日（水） 10時

2 場 所

Haakman Flowerbulbs 社

（北ホラント州 ウェルフェルスホーフ）

3 説明者

Haakman Flowerbulbs 社

ディレクター ディルク・ヤン・ハークマン 氏



調査事項：花き分野（チューリップ）における農業技術について

- ・ ハークマン社では、球根と花の生産を分社化し、リスク分散を図っている。また、オランダと季節の異なるニュージーランドに拠点を設けることで年間を通した生産が可能となっている。
- ・ 太陽光パネルによる発電や、WKOという地中熱を利用したシステムによる温度管理を行うことで、生産に必要なエネルギーを自給しており、このシステムで生産されたエネルギーは周辺の家庭にも供給されている。
- ・ 将来的な人手不足や人件費の上昇に備え、新型機械やコンピュータによる自動化も進めている。
- ・ 設備投資には多額の費用が必要だが、目の前の投資を抑えすぎると、将来的に追加コストが発生する可能性もあるため、明確なビジョンを持つことが重要。
- ・ オランダでは、スーパーマーケットで多くの切り花が流通しており、来店頻度も高い。日本でもスーパーマーケットでの流通に注力してはどうか。
- ・ ディルク氏から同社の概要説明を受けた後、工場内を見学し質疑応答を行った。

Shilla、Albert Heijn 視察概要

1 日 時

令和7年9月3日（水） 15時

2 場 所

Gelderlandplein 内

(北ホラント州 アムステルダム)

3 Shilla



日本や韓国の食材を中心に扱う食料品店であり、飲食スペースも備わっている。



日本食に使用される野菜や、日本から輸入された商品が数多く陳列されており、県内企業の米菓についても取扱いがあった。

4 Albert Heijn

オランダの大手スーパーマーケットであり、国内に1,000店舗以上を展開している。

「オランダにおける切り花の流通は、花屋ではなく、スーパーマーケットが中心である」という視察先での説明のとおり、店内では日本に比べ多くの切り花が陳列されていた。



調査事項：食料品店における日本食材の取扱い状況等について

- ・ 食料品店における日本食材の取扱い状況とスーパーマーケットにおける切り花の販売状況を現地で確認した。（休憩時間中に各団員が個々に店舗を訪問し、状況を確認したものであるため、質疑記録等はなし。）

P. F. Onings 社訪問概要

1 日 時

令和7年9月4日（木） 8時30分

2 場 所

P. F. Onings 社
(南ホラント州 プールデイク)



3 説明者

P. F. Onings 社
役員級 エバート・バン・ザンテン 氏

調査事項：花き分野（ユリ）における農業技術、オランダ・日本の園芸の現状、今後について

- ・ オーニングス社ではユリ等の球根を中心に取り扱っている。かつてはヨーロッパ内を中心に事業を展開していたが、現在では事業のほとんどがヨーロッパ外への輸出である。
- ・ 取り扱う球根には、厳しい品質チェックが行なわれている。球根の管理にはタブレットを活用し、インターネットを介した品質データの確認が可能である。
- ・ オランダの切り花産業は海外産の切り花に価格競争で勝つことができず、厳しい状況にあり、栽培者、栽培面積ともに減少している。
- ・ 人件費の高騰等の影響により、機械の導入や自動化が進んでいる。
- ・ 日本の園芸産業は、外部資金の調達が難しく規模の拡大が進まないこと、世代交代が進んでいないこと、細かいコスト計算が行われていないことなど様々な課題を抱えている。
- ・ 一方、日本は栽培技術や新品種の開発能力は世界トップクラスであることから、新品種の開発と輸出に注力してはどうかとの提言があった。

Moerman Liliium 社訪問概要

1 日 時

令和7年9月4日（木） 11時

2 場 所

Moerman Liliium 社
(南ホラント州 デ・リール)



3 説明者

Moerman Liliium 社
オーナー ヤン・モーマン 氏

※引き続き、P.F. Onings 社のエバート氏が同行した。

調査事項：花き分野（ユリ）における農業技術について

- 14ha ほどの敷地で年間5サイクル、合計1,700万本の切り花を生産している。半数はスーパーマーケット、半数は卸売業者に出荷される。
- 工場内の照明は100%LED化しており、スマートフォンで操作が可能である。導入に際し、1㎡あたり50ユーロの投資が必要だったが、25%は政府の支援があった。
- 工場内にはジェネレーターによる自家発電により電力を供給しており、電気代の上昇により、この設備がなければ事業が成り立たない状況である。
- 同社では25人が勤務しており、その半分が移民である。
- 同社オーナーのヤン氏によれば、日本の栽培技術は優れているが、ビジネスという視点で考えれば、より精緻なコスト計算をしていく必要があるとのことであった。
- ヤン氏により施設内を案内していただき、花きの栽培状況、出荷までの作業工程、施設内の自家発電設備等を視察した。



収穫した花の運搬は、ベルトコンベアにより自動化されている



自家発電設備

TomatoWorld 訪問概要

1 日 時

令和7年9月4日（火） 13時

2 場 所

TomatoWorld

（南ホラント州 ホンセラーズダイク）

3 説明者

TomatoWorld

アंक・ファン・デル・メウレン 氏

※引き続き、P.F. Onings 社のエバート氏が同行した。



調査事項：野菜栽培におけるスマート農業技術の活用について

- ・ トマトワールドは複数の企業等により運営されている研究機関である。また、気候変動や食料不足など、世界的な問題の解決という視点にも立ち、栽培技術の研究に取り組んでいる。
- ・ 施設内の温室には、水の配分や空気の循環、光量の調整やトマトの熟し具合の測定等、様々な所に最新のテクノロジーが取り入れられている。
- ・ 再利用可能な素材や、地下の温水の利用による環境に優しい栽培技術の研究にも取り組んでいる。
- ・ オランダ国内では、温室栽培に多くの電気が使用されている一方で、生産者自身が発電を行い、余剰電力を売却することで電力を供給する役割も担っている。
- ・ アंक氏から施設の説明を受けた後、施設内を見学し質疑応答を行った。

WorldHortiCenter 訪問概要

1 日 時

令和7年9月4日（火） 14時30分

2 場 所

WorldHortiCenter

（南ホラント州 ナールトウェイク）

3 説明者

WorldHortiCenter

ピーター・デ・ムンク 氏



調査事項： 温室園芸に係るスマート農業技術の活用に関する調査

- WorldHortiCenter(世界園芸センター)は、教育、起業、研究の3つの機能が一体となった施設である。
- スタートアップ企業に対しては、大手企業が財務面で支援している。オランダでは5年間で90社のスタートアップ企業が生まれている。
- ウェストラント市では、この施設を含め周辺一帯を合わせてキャンパスとするような取り組みを進めている。
- 温室は企業に貸し出され、それぞれの研究が行えるようになっている。
- センター内を見学し、様々な最新の農業技術について説明を受けた。

訪問先に関する情報

(1) JETROアムステルダム事務所

(独立行政法人日本貿易振興機構Japan External Trade Organization)

貿易の振興に関する事業を総合的かつ効率的に実施すること及びアジア地域等の経済事情について調査研究及び成果の普及を行い、貿易の拡大及び経済協力の促進に寄与することを目的として活動している。

海外56 か国に76 の事務所を設置している。

<主な事業内容>

海外からの投資の呼び込み、日本産農林水産物・食品輸出支援

中堅・中小企業等の海外展開支援、調査・分析

日本企業への海外ビジネス情報の提供

(2) Hokkai Suisan (北海水産) 社

1993 年に創業し、ヨーロッパの8,000 以上の家族に60 種類以上の伝統的な日本の魚製品を届けている。

水産物以外の調味料・お酒等も扱っており、日本の地方との連携に高い関心を持っている。

(3) Haakman Flowerbulbs社

球根輸出業者・チューリップ切り花生産法人であり、自社栽培とオランダおよびニュージーランドの優良栽培者との連携により、多様で高品質なチューリップ球根を年間を通じて供給している。

高度な自動化により、すべての球根の出所を正確に把握し、迅速な情報提供を可能としている。

県内農家とも取引を行っている。

(4) Shilla

日本と韓国の食材を扱ったスーパーマーケットで、1992 年に1号店をオープン。惣菜やイートインのスペースも備えている。

(5) Albert Heijn

オランダの大手スーパーマーケットで、国内に1,000店舗以上を展開している。

(6) P.F.onings 社

ユリをはじめチューリップ、アイリス、グラジオラス、アリウム、ヒヤシンス等の花き球根を取り扱う輸出入業者。球根については、本社及び試験温室で最高基準の試験及び検査を受け、50 か国以上に供給されている。

県内農家とも取引を行っている。

(7) Moerman Lilium 社

大規模ユリ生産者で、14haで年間1,700万本を生産。スーパーマーケットなどに高品質のユリを提供している。

(8) TomatoWorld

企業や組合等により運営されている温室園芸の研究機関・展示施設であり、ハイテク企業、スタートアップ、学生たちが5G、IoT、AI、ロボティクスといった最先端技術の開発に取り組んでいる。

(9) World Horti Center

国際的な温室園芸のための知識・イノベーションの拠点であり、企業・教育機関・研究機関・自治体が連携し、水資源・食糧供給・食品安全・福祉・持続可能性といった社会的課題の解決に向けて取り組んでいる。

施設には温室試験区を持つ研究所や、中等職業教育校が併設されている。